

高島市が「かきまき」景観行政をはじめます！

8月に実施した住民意向調査では、高島市の持つ豊かな自然や風景を残したいとの意見が多数寄せられました。市では、今後、そういった自然や風景を市民の皆さんとともに再発見し、これを保護・活用することで、私たちの生活空間の質を高めるとともに、誇りを持つ「未来(子どもたち)へ引き継げるよう」「高島でしかできない景観行政」に取り組みます。

高島らしさを大切に

高島市は、平成16年12月に施行された「景観法」に基づき景観行政団体となること、そして景観計画を策定するなどの二定の取り決めを行ない、高島らしさを取り戻すことを目指します。

活する上で必要不可欠なものであり、また人々の心を和ませる風景としても愛されてきました。人と自然のかかわりあいの中で育まれてきた風景には、歴史的な時間の積み重ねがもたらした独特な美しさとともに、豊かな文化的価値が込められています。このような風景は、一般的に「文化的景観」と呼ばれています。

これからは量的充実から質的向上へと時代が移り変わっていく、総合的な生活環境の質をいかに高めていくかが重要となります。そこで、この文化的景観の保存や活用を図ることにより、高島市の存在価値を高めていき、暮らしやすく快適なまちを目指します。

高島市は、琵琶湖や河川の「水」と森林・里山・田園などの「緑」が織りなす豊かな自然環境に恵まれたまちです。自然は、私たちが生



を関ることにより、高島市の存在価値を高めていき、暮らしやすく快適なまちを目指します。(都市計画課)

景観計画策定委員を募集します。

今回の景観計画を策定するにあたって、市民代表の公募委員を募集いたします。高島市の存在価値を高め住みよいまちを目指して、行政と市民の協働による手作りの計画を策定していきたいと考えています。



対象 高島市に住所を有し、年齢が満20歳以上の風景や景観に

対し関心のある方

募集人数 3人

任期

平成17年11月～平成19年3月

(計画策定まで)

▼応募方法 専用の「応募用紙」に必要事項を記入の上、持参または郵送で提出してください。

▼「応募用紙」は市役所別館都市計画課または各支所地域振興課(本庁は土木交通部分室)にあります。

▼選考方法 応募者多数の場合は、書類選考により決定します。また、結果については応募者全員に通知します。

▼応募〆切 11月10日(木) 問い合わせ・申込先 土木交通都市計画課 電話(052)00558

『多目的レスキューバッグ』で、全国消防研究会に出場！

消防機器等の開発・改良についての発表会「毎年開催されています」新しい消防機器等の開発・改良についての発表会「において、高島市消防本部の宮田俊勝・窪田真司の両名が考案作成した作品『多目的レスキューバッグ』が、滋賀県大会、東近畿支部大会で入賞し東近畿支部代表として、平成17年度全国消防研究会に出場することになりました。高島市消防本部では、埼玉で開催された全国救助技術指導会入賞に引き続きの全国大会出場となりました。

今後このつした職員の士気を持続し、予想される琵琶湖西岸断層帯地震や自然災害等、各種災害に対しても、十二分に危機管理を高めて市民の皆さんのために頑張りたいと思います。

多目的レスキューバッグとは

近年、複雑多様化する救助現場では、多くの救助資機材が使用されています。年々軽量化等されているものの、特に山岳救助などでは隊員が多く資機材を携行して自らの足で現場まで向かうことが多く、現場到着までに体力の消耗が心配されます。そこで、「いつでも資機材を減らすことが出来れば」との思いから、今回の多目的レスキューバッグを考案しました。バッグは、簡易縛帯や布担架または背負子に用いることが可能にした重さ約1.5kgの多目的レスキューバッグです。内容量はザイル、ナイロンロープ共に約100mが収納可能で、素材は布を用いて作製、フライドールはシートベルトを使用しました。



(北部消防署)

市長日記

高島市になって初めての秋。色々な豊かに彩られた姿に出会います。それぞれ短い時間でしたが運動会にもお邪魔しました。高島は、1世帯から1人は出場していた、競い合いながらも、和やかな空気に包まれ、自治の土作りの様だと感じました。

安曇川は、1970年から続く「南部忠平杯争奪リレー」が旺巻で、名のある陸上選手(元も含む)や若い才能が颯爽と駆け、会場全体に漲る高揚感が醍醐味でした。

朽木は、村民の半分以上が参加してきた伝統が受け継がれ、小中学生は全員参加で張り切り、柔道部や消防団が目立ち、一人の存在に向けられる眼差しが暖かく、世代のつながりを感じました。安曇川、朽木ともに18地区の対抗でした。

今津は、トラックを取り囲むテントが約50張。緑色で統一された地区の旗が印象的で、12地区対抗で、テント下に溢れる人々の厚みを感じました。

新旭は、9地区の対抗でした。強豪チームも健在で、オープンのリレー競技に若い保育士さんが多数出場されるなど、運営スタッフにも若者や女性の姿が目立ち、民の力を感じました。

一週間後に開催されたマキノの栗マラソンは、参加者選手だけで千七百人、知事も開会式に駆けつけてくださるなど、ピックランドの大賑わいが目に浮かびます。事業のしなびが上手なマキノの地力を教えられました。

普段は何もないグラウンドや道路が、みんなの想いと協力で感動と共感の空間に変わります。掛け替えのない時間、ドラマの舞台になるのです。私は、このことに感動し

ます。

「フィールド・オブ・ドリームス」という映画があります。その名を冠したNPO(アメリカのメジャーリーグで活躍中の、大家友和(京都出身)選手とその仲間)が高島市を本拠地、今津スタジアムをホームグラウンドとして、社会人野球チームを設立される事となりました。

高島市は、野球への夢を追い、努力を惜しまない若者を家族として受け入れることになりました。色々な分野の才能が夢を実現できるフィールド、高島市でありたいですね。東京から来られた役員さんが自分たちの夢を説明するのに、清水安三さんの「ほら吹き安三」が桜美林学園を実現されたことを引き合いに出され驚きました。最後の教え子だとのこと。

失敗を恐れて、着手する前に諦めていることがあります。夢の大小ではなく始めること、その過程に飛び込むことが大事だと、記者会見をご一緒しただけで励まされました。

地域の野球やサッカークラブが、地域経済や教育に大きな活力を産む事例も多く、一緒に育んでいきたいですね。

「阪神タイガースもええけど、高島市のチームもな...」と語る日は近い!?

海東英和 拜



ドイツバイエルン州キム湖周辺町代表のヴァルナー氏と、びわ湖環境ビジネスメッセ(10月19日)において、滋賀県より環境観光分野について交流しはとの紹介がありました。氏は翌日、高島市を訪問されました。

「あなたです 火のあるところの 見はり役」

11月9日(水)から15日(火)

(統標語)

秋の全国火災予防運動

火災が発生しやすい時期になってきました。そこで、市民の皆さんに火災予防に関心も持つていただき火災発生を防止すること、また、高齢者等を中心とする死者の発生を減少させ、財産の損失を防ぐことを目的に、秋の火災予防運動を実施します。

重点目標

- ①住宅防火対策の推進
②放火火災・連続放火火災予防対策の推進
③震災時における出火防止対策等の推進



住宅防火 3つのポイント

- 1. 寝たばこは、絶対やめる。
2. ストープは、燃えやすいものか



(消防本部)

火災予防条例が改正され、住宅に住宅用火災警報器等の設置が義務化されました。なお詳細は次号に掲載します。